

(様式第 10)

群大医総 2 第 2 6 号
令和 2 年 1 0 月 2 日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

開設者名 国立大学
学 長 平塚 浩

群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
氏 名	国立大学法人群馬大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

群馬大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番15号 電話 (027) 220-7111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科	②消化器内科
⑤神経内科	③循環器内科
9感染症内科	6血液内科
	7内分泌内科
	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	4腎臓内科
	8代謝内科
	11リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	☒ 心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☒ 精神科	☒ 小児科	☒ 整形外科	☒ 脳神経外科	☒ 皮膚科	☒ 泌尿器科	7産婦人科
☒ 産科	☒ 婦人科	☒ 眼科	☒ 耳鼻咽喉科	☒ 放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		☒ 麻酔科	☒ 救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ 無		
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	☒ 口腔外科	
歯科の診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臨床検査科	2リハビリテーション科	3病理診断科	4形成外科	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
40床	2床	9床	0床	680床	731床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	288 人	334 人	495.9 人	看 護 補 助 者	52 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	10 人	18 人	21.0 人	理 学 療 法 士	14 人	臨床検査技師	74 人
薬 剤 師	56 人	0 人	56.0 人	作 業 療 法 士	5 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	8 人	そ の 他	0 人
助 産 師	31 人	0 人	31.0 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	799 人	30 人	820.8 人	臨 床 工 学 士	15 人	医療社会事業従事者	8 人
准 看 護 師	0 人	1 人	0.2 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	12 人
歯科衛生士	3 人	0 人	3.0 人	歯 科 技 工 士	2 人	事 務 職 員	276 人
管理栄養士	10 人	0 人	10.0 人	診療放射線技師	56 人	そ の 他 の 職 員	3 人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	69 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	35 人	耳鼻咽喉科専門医	12 人
精 神 科 専 門 医	8 人	放射線科専門医	21 人
小 児 科 専 門 医	18 人	脳神経外科専門医	10 人
皮 膚 科 専 門 医	8 人	整形外科専門医	14 人
泌尿器科専門医	12 人	麻 酔 科 専 門 医	25 人
産婦人科専門医	14 人	救 急 科 専 門 医	6 人
		合 計	259 人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(田村 遵一) 任命年月日 平成27年4月1日

医療業務安全管理委員会委員長(平成27年4月から現在)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	574.2 人	12.3 人	586.5 人
1日当たり平均外来患者数	1,803.9 人	89.3 人	1,893.3 人
1日当たり平均調剤数			284 剤
必要医師数			162 人
必要歯科医師数			6 人
必要薬剤師数			20 人
必要（准）看護師数			356 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要
集中治療室	1,245m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数 17 床 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 404 m ² 病床数 10 床 [移動式の場合] 台数 台			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 62 m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	621 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 臨床化学・免疫自動検査システム 血液検査システム	
細菌検査室	83 m ²	〃	(主な設備) 細菌同定感受性総合検査システム	
病理検査室	116 m ²	鉄骨造	(主な設備) 自動標本染色装置、ミクロトーム他	
病理解剖室	186 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 解剖台 他	
研究室	12,748m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) パソコン、実験台、遠心分離機、書籍棚他	
講義室	1,365m ²	〃	室数 3 室	収容定員 522 人
図書室	2,413m ²	〃	室数 2 室	蔵書数 132,135 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		89.9 %	逆紹介率		96.9 %
算出根拠	A：紹介患者の数				15,468 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数				19,651 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数				2,762 人
	D：初診の患者の数				20,269 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者 団体連合会理 事長 一般社団法人 グループ・ネク サス・ジャパン 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共 済組合連合会 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務 所弁護士		法律に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
児玉 安司	新星総合法律 事務所 弁護士/医師		医療に係る安全 管理に関する識 見及び法律に関 する識見を有す る者	有・ ☒ 無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
谷 修一	国際医療福祉 大学名誉学長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
堀田 知光	国立がん研究 センター名誉 総長	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレ ビ朝日ホール ディングス代 表取締役社長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有・無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有・無
公表の方法 大学ホームページに掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経性疾患の遺伝子診断	1人
重粒子線治療	77人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	80人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用カルボプラチン3週毎腹腔内投与	0人
重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	3人
重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	2人
ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	1人
重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	精索静脈瘤手術時におけるICG蛍光造影の有用性	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 精索静脈瘤に対する顕微鏡下低位精索結紮術時にICG蛍光血管造影を併用することで、微細な動脈の温存が可能になる。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 胸部・腹部大動脈瘤に対して開胸・開腹を加えずに血管内で治療が可能。			
医療技術名	弁形成術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 弁膜症に対して人工弁を使わずに形成のみで治療を行う。(ワーファリンなどの投薬が不要となる。)			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 狭心症に対する治療で人工心肺を使用せず、拍動下で行う治療。			
医療技術名	遺伝性腫瘍症候群患者における遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 遺伝性腫瘍症候群(MEN1,MEN2,家族性大腸腺腫症,リンチ症候群,フォン・ヒッペル・リンドウ病など)における遺伝カウンセリングの実施と、遺伝子検査の実施。			
医療技術名	核酸医薬を用いた脊髄性筋萎縮症に対する新規治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 SMN(survival motor neuron)2遺伝子のmRNA前駆体のimtron7に相補的に結合し、本来欠失するexon7を含む完全長のSMN蛋白を作らせるアンチセンス核酸医薬を髄注することで症状の改善を図る新規治療。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 食道癌に対して、ロボット支援下に胸腔鏡下食道切除術を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	12	56 ベーチェット病	63
2 筋萎縮性側索硬化症	28	57 特発性拡張型心筋症	31
3 脊髄性筋萎縮症	3	58 肥大型心筋症	16
4 原発性側索硬化症	0	59 拘束型心筋症	0
5 進行性核上性麻痺	11	60 再生不良性貧血	47
6 パーキンソン病	138	61 自己免疫性溶血性貧血	14
7 大脳皮質基底核変性症	4	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8 ハンチントン病	0	63 特発性血小板減少性紫斑病	62
9 神経有棘赤血球症	0	64 血栓性血小板減少性紫斑病	3
10 シャルコー・マリー・トゥース病	4	65 原発性免疫不全症候群	7
11 重症筋無力症	134	66 IgA 腎症	38
12 先天性筋無力症候群	0	67 多発性嚢胞腎	6
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	125	68 黄色靱帯骨化症	1
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	26	69 後縦靱帯骨化症	7
15 封入体筋炎	8	70 広範脊柱管狭窄症	1
16 クロウ・深瀬症候群	1	71 特発性大腿骨頭壊死症	0
17 多系統萎縮症	7	72 下垂体性ADH分泌異常症	0
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	70	73 下垂体性TSH分泌亢進症	1
19 ライソゾーム病	1	74 下垂体性PRL分泌亢進症	0
20 副腎白質ジストロフィー	0	75 クッシング病	13
21 ミトコンドリア病	6	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22 もやもや病	26	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1
23 プリオン病	0	78 下垂体前葉機能低下症	0
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	9
25 進行性多巣性白質脳症	1	80 甲状腺ホルモン不応症	4
26 HTLV-1関連脊髄症	1	81 先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27 特発性基底核石灰化症	1	82 先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	2	83 アジソン病	5
29 ウルリッヒ病	0	84 サルコイドーシス	136
30 遠位型ミオパチー	1	85 特発性間質性肺炎	46
31 ベスレムミオパチー	0	86 肺動脈性肺高血圧症	53
32 自己食空腔性ミオパチー	1	87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33 シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34 神経線維腫症	2	89 リンパ脈管筋腫症	10
35 天疱瘡	9	90 網膜色素変性症	4
36 表皮水疱症	9	91 バッド・キアリ症候群	0
37 膿疱性乾癬(汎発型)	8	92 特発性門脈圧亢進症	0
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93 原発性胆汁性肝硬変	195
39 中毒性表皮壊死症	0	94 原発性硬化性胆管炎	6
40 高安動脈炎	3	95 自己免疫性肝炎	34
41 巨細胞性動脈炎	0	96 クローン病	93
42 結節性多発動脈炎	14	97 潰瘍性大腸炎	131
43 顕微鏡的多発血管炎	50	98 好酸球性消化管疾患	21
44 多発血管炎性肉芽腫症	26	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	22	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	11	101 腸管神経節細胞減少症	0
47 バージャー病	25	102 ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103 CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	589	104 コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	202	105 チャージ症候群	0
51 全身性強皮症	168	106 クリオピリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	95	107 全身型若年性特発性関節炎	0
53 シェーグレン症候群	503	108 TNF受容体関連周期性症候群	0
54 成人スチル病	14	109 非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55 再発性多発軟骨炎	4	110 ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113 筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	2
118 脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119 アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128 ビッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136 片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	4
144 レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145 ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	2
146 大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	9	208	修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	5
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	58	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	8	283	後天性赤芽球瘍	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポート1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	18
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	21

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロームステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算【加算2】
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・地域医療体制確保加算
・医師事務作業補助体制加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料2
・看護職員夜間配置加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護補助加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	・短期滞在手術等基本料1
・精神科身体合併症管理加算	・短期滞在手術等基本料2
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・ウイルス疾患指導料	・歯科疾患在宅療養管理料の注4に規定する在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料イ	・骨髓微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ロ	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ハ	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料ニ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(1)
・糖尿病透析予防指導管理料	・検体検査管理加算(4)
・小児運動器疾患指導管理料	・国際標準検査管理加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・遺伝カウンセリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・腎代替療法指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・光トポグラフィー
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・神経学的検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図
・医療機器安全管理料1	・全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料2	・ロービジョン検査判断料

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・コンタクトレンズ検査料1	・口腔粘膜血管腫凝固術
・小児食物アレルギー負荷検査	・レーザー機器加算
・内服・点滴誘発試験	・人工腎臓
・画像診断管理加算1	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層撮影	・手術用顕微鏡加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・歯科技工加算1及び2
・CT撮影及びMRI撮影	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・冠動脈CT撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・乳房MRI撮影加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・頭部MRI撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・角膜移植術(内皮移植加算)
・外来化学療法加算1	・羊膜移植術
・無菌製剤処理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・心大血管疾患リハビリテーション料(1)	・網膜再建術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・人工中耳植込術
・運動器リハビリテーション料(1)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)
・がん患者リハビリテーション料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・リンパ浮腫複合的治療料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・認知療法・認知行動療法1	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
・医療保護入院等診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
・口腔粘膜処置	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))

施設基準の種類	施設基準の種類
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
・内視鏡下筋層切開術	・輸血管理料1
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・輸血適正使用加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・歯周組織再生誘導手術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・歯根端切除手術の注3
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・麻酔管理料(1)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・麻酔管理料(2)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・放射線治療専任加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・外来放射線治療加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術	・1回線量増加加算
・生体部分肝移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・定位放射線治療
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・粒子線治療
・同種死体腎移植術	・粒子線治療適応判定加算
・生体腎移植術	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携による病理診断

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・遺伝子学的検査(脊髄小脳変性症)	・粒子線治療(前立腺)
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	12回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 22例 / 剖検率 6.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
痛み治療のための再生医療の開発:細胞移植技術と徐放製剤を活用した新規アプローチ	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	4,160,000	補委	日本学術振興会
甲状腺ホルモンの動脈硬化進展抑制機構の解明	村上 正巳	検査部	4,550,000	補委	日本学術振興会
脊椎の発生・維持・変性の分子機序解明を目指した統合的研究	筑田 博隆	整形外科	130,000	補委	日本学術振興会
線維芽細胞が産生する新規液性因子の肝胆膵癌悪性化の機序解明と革新的治療の開発	調 憲	肝胆膵外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
患者参加型医療推進と治療法決定プロセス改善に向けた組織的アプローチ	小松 康宏	医療の質・安全管理部	3,770,000	補委	日本学術振興会
高精細な病理診断と遺伝子解析を組み合わせた分類困難な脳腫瘍の層別化	横尾 英明	病理部	2,210,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーと連動させたTN乳癌のパネル診断と組織解析	小山 徹也	病理部	2,470,000	補委	日本学術振興会
転写伸長機構に着目したマイクロサテライトリピート伸長病の治療開発	池田 佳生	脳神経内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
甲状腺ホルモン活性化を介したサルコペニアを改善する新規骨格筋G蛋白共役受容体の同定	荒木 修	検査部	1,690,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の脳局所/領域間ネットワーク病態についての機能的コネクトームMEG研究	武井 雄一	精神科神経科	1,300,000	補委	日本学術振興会
低酸素イメージング誘導 high-LET炭素イオン線治療の開発に向けた基礎的検討	大野 達也	放射線科	1,365,000	補委	日本学術振興会
ルシフェラーゼ遺伝子導入担癌マウスを用いた凍結療法適応拡大のための前臨床研究	宮崎 将也	放射線部	1,235,000	補委	日本学術振興会
放射線照射後のDNA修復応答による免疫関連リガンド発現機構の解析	佐藤 浩央	放射線科	1,950,000	補委	日本学術振興会
Cu-64 PSMA-PETによる分化型甲状腺癌でのPSMA発現に関する研究	樋口 徹也	核医学科	1,430,000	補委	日本学術振興会
臨床応用を目指したトリプルネガティブ乳癌に対する分子標的RI内用療法の開発	勝又 奈津美	放射線部	780,000	補委	日本学術振興会

小計15

肺高血圧血管病変におけるユビキチン様修飾による平滑筋分化誘導機構の解明	小和瀬 桂子	救・総医療センター(総診)	1,430,000	補委	日本学術振興会
心筋ミトコンドリア/細胞質ATP可視化マウスによる心臓エナジェティクス解析	小板橋 紀通	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
食塩感受性高血圧における炎症シグナルとネプリライシンのリンパ管再構築に対する意義	中村 哲也	循環器内科	1,599,000	補委	日本学術振興会
ポドサイト細胞生物学による特発性ネフローゼ症候群の鑑別診断法の確立	小林 靖子	小児科	2,210,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎におけるI型インターフェロン発現上昇: LINE-1とウイルス感染の関与	清水 晶	皮膚科	2,210,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞の過活性化により誘発される耐糖能異常の免疫学的解析	金子 和光	腎臓・リウマチ内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
伸展刺激で得られる骨格筋細胞外小胞は新たな糖代謝改善薬になり得るか	齋藤 従道	内分泌糖尿病内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
甲状腺機能低下症モデルTRHKOマウスにおけるNASH/NAFLD発症機構の解明	中島 康代	内分泌糖尿病内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肝筋相関からみたサルコペニアが肝再生に及ぼす影響の分子機序解明	新木 健一郎	肝胆膵外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肝星細胞をターゲットとした新たな肝再生機序解明と革新的治療法の開発	播本 憲史	肝胆膵外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
消化管癌に対するイリノテカン療法の効果増強を目指した新たな治療法の開発	佐伯 浩司	消化管外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肺癌における血行性転移機序の解明と新規アジュバント治療の開発	伊部 崇史	呼吸器外科	750,649	補委	日本学術振興会
グリシン作動性抑制系の術後慢性痛に及ぼす影響の解明	山田 真紀子	麻酔科蘇生科	1,950,000	補委	日本学術振興会
高齢ラットを用いた術後認知機能障害の分子生物学的解明とその治療法の確立	門井 雄司	手術部	1,560,000	補委	日本学術振興会
「認知性疼痛」病態/治療における脳の構造/機能ダイナミクス(横断・縦断研究)	荻野 祐一	麻酔科蘇生科	1,170,000	補委	日本学術振興会
包括的評価による反復性肩関節前方脱臼の病態解明ースポーツ復帰率を高めるためにー	設楽 仁	整形外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対するPARP阻害剤・スタチン・プラチナ製剤併用効果の基礎的研究	関根 芳岳	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会

VR技術を用いた半側空間無視のリハビリテーション手法の開発	和田 直樹	リハビリテーション部	650,000	補委	日本学術振興会
マイクロ糸球体モデルによるタンパク透過性亢進の機序解明	池内 由果	小児科	780,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍における高悪性度を示す新規疾患群の病態解明と疾患概念の確立	信澤 純人	病理部	2,210,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌を対象としたオシメルチニブの効果予測因子に関するバイオマーカー解析	笠原 礼光	呼吸器・アレルギー内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
超解像顕微鏡をもちいた重粒子線クラスター損傷の修復動態予測アルゴリズム開発	尾池 貴洋	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床病期I期非小細胞肺癌に対する重粒子線治療と体幹部定位放射線治療の費用効果分析	岡崎 祥平	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する粒子線の深吸気息止め照射の頑健性と有効な方法を探る	入江 大介	放射線科	2,210,000	補委	日本学術振興会
小児急性骨髄性白血病の分子病態と発症年齢に基づく新たなリスク層別化治療の構築	原 勇介	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
TGF- β による糸球体上皮細胞障害とWT1の発現低下機序について	浜谷 博子	腎臓・リウマチ内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
亜鉛欠乏による褥瘡発生機序の解明:なぜ亜鉛欠乏状態では褥瘡が発生しやすいのか?	上原 顕仁	皮膚科	1,950,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息の新たな治療標的としてのプロトン感知性受容体TDAG8	鶴巻 寛朗	呼吸器・アレルギー内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
PPAR γ の新規転写共役因子SFPQ/PSFの脂肪細胞の分化における役割	土岐 明子	内分泌糖尿病内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
甘味受容体を介するGLP-1分泌促進薬の開発にむけた検討	大津 義晃	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁石灰化進行の分子生物学的メカニズムに着眼した大動脈弁狭窄抑制薬の開発	立石 渉	循環器外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
肺癌における直鎖状ユビキチン関連シグナルとEGFRシグナルのクロストーク	中澤 世識	呼吸器外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
スキンコンダクタンスモニターを用いた痛みの客観的評価	杉峰 里美	集中治療部	3,250,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシーの診断精度向上と発生機序解明:好塩基球活性化試験を用いて	折原 雅紀	麻酔科蘇生科	2,340,000	補委	日本学術振興会

乳房再建術の術後痛と生活の質に関する内因性鎮痛と脳機能相関/前向き観察研究	熊倉 みなみ	麻酔科蘇生科	1,170,000	補委	日本学術振興会
重症患者における安静時消費エネルギー推測式の新規作成	竹前 彰人	麻酔科蘇生科	1,820,000	補委	日本学術振興会
重症敗血症におけるAN69ST膜を使用したCHDFの有効性	大高 麻衣子	集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷モデルマウスに対する液性因子治療	三枝 徳栄	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌の癌微小環境におけるエクソソームを介した細胞間コミュニケーションの解明	御任 一光	耳鼻咽喉科	2,080,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌における循環癌細胞のheterogeneityとその臨床意義の解析	井田 翔太	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヘルペスウイルス眼感染症におけるウイルスタイピングの解析	細貝 真弓	眼科	1,690,000	補委	日本学術振興会
CTLA4阻害剤による網膜色素上皮炎モデルの作製と病態メカニズムの解明	向井 亮	眼科	3,510,000	補委	日本学術振興会
内臓脂肪型肥満発症経路が関与する抗癌剤耐性機構の解明	喜名 美香	歯科口腔・顎顔面外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規子宮内膜症モデルと線維化セルリネッジによるドライバー変異発生機序の探索	岩瀬 明	産科婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
臨床応用を目指した生体内における新規グルカゴン分泌制御機構の解明	須賀 孝慶	消化器・肝臓内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規エネルギー代謝マーカーとしてのリポ蛋白リパーゼ	常川 勝彦	検査部	1,690,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸とその受容体に着目した末梢血幹細胞動員の総合的理解	横濱 章彦	血液内科	1,612,000	補委	日本学術振興会
早老症の皮膚硬化、脂肪萎縮の病態解明と新規治療法の開発を目指して	遠藤 雪恵	皮膚科	130,000	補委	日本学術振興会
分子PET画像とCSF分析による脳アミロイドアンギオパチーからタウ病理発生の解明	池田 将樹	脳神経内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
抗IL-6受容体抗体を利用した光免疫療法による関節リウマチの新規治療法の開発	中島 崇仁	核医学科	910,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノチューブを利用した自己集合型・腫瘍特異的超音波造影剤の開発	対馬 義人	核医学科	1,170,000	補委	日本学術振興会

腎単核貪食細胞による腎尿細管間質障害機序の解明	廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	1,365,000	補委	日本学術振興会
急性期褥瘡の病態解明と新規治療の開発:間葉系幹細胞由来エクソソームに着眼して	茂木 精一郎	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
重症難治性喘息への挑戦 抗炎症性脂質メディエーターの作用解析から創薬へ向けた研究	久田 剛志	呼吸器・アレルギー内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
気道炎症におけるプロトン感知性受容体OGR1を介した新規吸入薬開発への挑戦	齋藤 悠	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシー確定診断法の開発:抗原特異的IgEと尿中マーカーの測定	高澤 知規	集中治療部	1,170,000	補委	日本学術振興会
局所麻酔徐放薬を用いた疼痛管理	戸部 賢	集中治療部	910,000	補委	日本学術振興会
麻酔薬・鎮痛薬の神経発達に及ぼす影響の検討	麻生 知寿	麻酔科蘇生科	780,000	補委	日本学術振興会
新たな血管収縮薬投与法の確立を目指した心肺停止状態におけるRAA系動態の解明	大嶋 清宏	救・総医療センター(救急)	1,040,000	補委	日本学術振興会
pH感受性G蛋白関連受容体OGR1の肺腎関連における役割の解明	池内 秀和	腎臓・リウマチ内科	650,000	補委	日本学術振興会
頭蓋咽頭腫における病理学的サブタイプと糖代謝に関する検討	登坂 雅彦	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
抗サバイビン光抗体療法と重粒子免疫療法による抵抗性前立腺癌治療の基礎的研究	小池 秀和	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
循環不全モデルマウスにおける前庭小脳機能障害が前庭神経核に及ぼす影響の解明	高安 幸弘	耳鼻咽喉科	780,000	補委	日本学術振興会
イリジウム錯体を用いた脈絡毛細管板のりん光寿命マップ	秋山 英雄	眼科	910,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアに関与する新たな調節因子の解明	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規Galectin-3阻害剤による肝線維化制御の革新的治療開発に関する基礎研究	石井 範洋	肝胆膵外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
重粒子線照射に対する細胞応答反応における二次的バイスタンダー効果の解析	神沼 拓也	重粒子線医学センター	1,040,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症患者の消化管運動障害の病態解明	栗林 志行	消化器・肝臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会

全身性強皮症の皮膚硬化に対するボツリヌス毒素の治療効果と機序の解明	関口 明子	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒストンメチル化酵素MLLの膵β細胞におけるエピジェネティックな機能解析	吉野 聡	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
膵臓ベータ細胞脱分化の改善を目指した2型糖尿病の新たな治療戦略	石田 恵美	内分泌糖尿病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝癌関連線維芽細胞を標的とした革新的治療法の開発	塚越 真梨子	肝胆膵外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌、膵癌に対する新規Galectin-3阻害薬を用いた治療戦略	五十嵐 隆通	肝胆膵外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
抗うつ薬による内因性鎮痛機能の回復作用と遷延性術後痛に対する有用性の検討	太田 浄	麻酔科蘇生科	650,000	補委	日本学術振興会
神経障害性痛治療薬併用効果機序の解明ーガバペンチノイドの効果増強を目指してー	廣木 忠直	麻酔科蘇生科	1,300,000	補委	日本学術振興会
HDAC阻害薬を用いた内因性鎮痛機構の改善による遷延性術後痛の新規予防法の開発	室岡 由紀恵	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
痛みの遷延化に関与する内因性鎮痛機構の可塑的变化の解明	須藤 貴史	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
術後高次脳機能障害(POCD)と酸化ストレス:抗酸化物質は治療薬になるか	堀内 辰男	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞及び培養上清を用いた新規重症熱傷治療法の開発	澤田 悠輔	救・総医療センター(救急)	1,690,000	補委	日本学術振興会
オートファジーに着目した前立腺癌細胞におけるスタチンの抗腫瘍効果メカニズムの解明	宮澤 慶行	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会
乳房再建を頭部MRIを用いた脳科学的アプローチで評価する臨床研究	牧口 貴哉	形成外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔癌代謝リプログラミングを反映した新規PETバイオマーカーの探索	金 舞	歯科口腔・顎顔面外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
開鼻声値から算出される鼻咽腔閉鎖圧を用いた鼻咽腔機能評価法の開発と基準値の設定	五味 暁憲	歯科口腔・顎顔面外科	390,000	補委	日本学術振興会
肝内胆管癌の発がんにおける核内受容体CARの役割	柿崎 暁	消化器・肝臓内科	780,000	補委	日本学術振興会
血中小粒子高比重LDL(sdLDL)生成におけるリパーゼの役割	木村 孝穂	検査部	910,000	補委	日本学術振興会

DNA修復に着眼した多発性骨髄腫の耐性機構の解明と新たな治療法の開発	齋藤 貴之	血液内科	650,000	補委	日本学術振興会
抗癌剤治療前の客観的高齢者評価法の開発	滝沢 牧子	血液内科	780,000	補委	日本学術振興会
肝前駆細胞を介した胆管上皮細胞増殖、胆管形成、再生における核内受容体CARの役割	山崎 勇一	消化器・肝臓内科	845,000	補委	日本学術振興会
特異及び多彩な表現型を呈する遺伝性不整脈疾患の分子病態の解明と治療法の確立	中島 忠	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
肥太心の代謝リモデリングのメカニズムと病態生理的意義の解明	磯 達也	循環器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸組成バランスとストレス誘導因子Sestrinによる肺気腫化・線維化の解明	横山 知行	循環器内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナル伝達経路を標的とした非小細胞肺癌に対する新規治療法の開発	砂長 則明	呼吸器・アレルギー内科	650,000	補委	日本学術振興会
エネルギー代謝調節に関わる視床下部-下垂体-甲状腺系の中核制御機構の解明	渋谷 信行	内分泌糖尿病内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
癌抑制遺伝子MEN1の非腫瘍組織(骨格筋)における新規機能の解明	小澤 厚志	内分泌糖尿病内科	780,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症の皮膚硬化・血管障害の病態における細胞外ATPの役割	石川 治	皮膚科	260,000	補委	日本学術振興会
NK細胞活性化によるアトピー性皮膚炎の新規治療の開発	岸 史子	皮膚科	390,000	補委	日本学術振興会
癌浸潤におけるfunctional switch機構の解明:TGF- β 新規作用	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	975,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における免疫抑制解除を目指した癌・間質細胞共通標的分子の探索	近松 一朗	耳鼻咽喉科	910,000	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛により減弱した内因性鎮痛経路回復機構の解明	松岡 宏晃	集中治療部	1,430,000	補委	日本学術振興会
GABA神経系と免疫系の相互作用解析に基づく統合失調症の病態解明	藤原 和之	精神科神経科	1,170,000	補委	日本学術振興会
糸球体上皮細胞障害におけるmiR-143の役割の解明	坂入 徹	腎臓・リウマチ内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
急性腎障害早期マーカーNGALとhANP早期投与の有用性	神山 彩	集中治療部	260,000	補委	日本学術振興会

一過性虚血による内側前庭神経核ニューロンの膜特性変化に対するセロトニンの影響	紫野 正人	耳鼻咽喉科	520,000	補 委	日本学術振興会
StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後mFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	小川 博臣	消化管外科	21,600	補 委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
進行悪性黒色腫に対するニボルマブの有効性評価に関する観察研究	石川 治	皮膚科	129,600	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	鈴木 和浩	泌尿器科	108,500	補 委	特定非営利活動法人J-CaP研究会
分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	43,200	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
婦人科悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症に関する多施設共同前向き登録研究および単群検証的臨床試験	平川 隆史	産科婦人科	473,800	補 委	一般財団法人北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム
左室収縮性が保持された心不全合併高齢2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬カナグリフロジンの有効性・安全性に及ぼす影響	高間 典明	循環器内科	109,200	補 委	公立大学法人奈良県立医科大学
再発又は難治性の多発性骨髄腫患者における髄外腫瘍(髄外形質細胞腫)に対するダラツムマブの有効性の検討	半田 寛	血液内科	25,090,683	補 委	学校法人日本医科大学
疾患モデル高度化による視床下部・下垂体難病研究	山田 正信	内分泌糖尿病内科	3,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂肪酸の鎖長を基軸とした疾患の制御機構と医療展開に向けた基盤構築	倉林 正彦	循環器内科	9,880,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	池田 佳生	脳神経内科	1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
髄液中リゾリンししつそくていの客観的疼痛マーカーとしての臨床検査への導入	筑田 博隆	整形外科	1,321,667	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 国立大学法人東京大学

超早期発症型炎症性腸疾患に対するシームレスな診断・治療・研究体制の構築	石毛 崇	小児科	800,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
薬物性肝障害の臨床資料収集と関連解析	佐藤 賢	消化器・肝臓内科	2,990,000	補 委	木原記念横浜生命科学振興財団
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	石川 治	皮膚科	130,000	補 委	国立大学法人熊本大学
副作用自発報告の充実	中村 哲也	臨床試験部	400,000	補 委	学校法人北里研究所
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	神沼 拓也	重粒子線医学センター	379,600	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	山田 正信	内分泌糖尿病内科	130,000	補 委	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
洞不全症候群患者登録	中島 忠	循環器内科	325,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
病態及び治療体系に基づいた神経障害性疼痛の分類の検討	筑田 博隆	整形外科	195,000	補 委	学校法人自治医科大学
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	近松 一郎	耳鼻咽喉科	325,000	補 委	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
閉経後ホルモン受容体陽性切除不能および転移・再発乳癌に対するパルボシクリブ療法の観察研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	20,000	補 委	一般社団法人 CSPOR-BC
転移性HER2陽性乳癌に対するT-DM1後の次治療の臨床効果に関する多施設共同コホート研究(WJOG12519B)	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	330,000	補 委	特定非営利活動法人 西日本がん研究機構
神経発達障害の病因解明を目指したクロマチンの3次元構造解析	滝沢 琢己	小児科	7,800,000	補 委	国立大学法人東京大学

小計12

計141件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Motegi, S; Sekiguchi, A; Fujiwara, C; et al.	皮膚科	Milia-like idiopathic calcinosis cutis and plaque- type syringoma in a girl with Down syndrome	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2019 APR; 46: E136-E137	Letter
2	Kubota, Y; Ohno, T; Kawashima, M; et al.	重粒子線医学セン ター	Development of a Vaginal Immobilization Device: A Treatment-planning Study of Carbon-ion Radiotherapy and Intensity-modulated Radiation Therapy for Uterine Cervical Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2019 APR; 39: 1915-1921	Original Article
3	Hamatani, H; Sakairi, T; Ikeuchi, H; et al.	腎臓・リウマチ内科	TGF-beta 1 alters DNA methylation levels in promoter and enhancer regions of the WT1 gene in human podocytes	NEPHROLOGY. 2019 MAY; 24: 575-584	Original Article
4	Tosaka, M; Shimizu, T; Miyagishima, T; et al.	脳神経外科	Combined supra-infrasellar approach to pituitary macroadenoma with oculomotor cistern extension: surgical strategy and experience	ACTA NEUROCHIRURGICA. 2019 MAY; 161: 1025-1031	Original Article
5	Murata, M; Hagiwara, S; Aoki, M; et al.	脳神経外科	The significance of the levels of fibrin/fibrinogen degradation products for predicting trauma severity	HONG KONG JOURNAL OF EMERGENCY MEDICINE. 2019 MAY; 26: 143-150	Original Article
6	Matsumura, N; Nobusawa, S; Ito, J; et al.	病理部	Multiplex ligation-dependent probe amplification analysis is useful for detecting a copy number gain of the FGFR1 tyrosine kinase domain in dysembryoplastic neuroepithelial tumors	JOURNAL OF NEURO- ONCOLOGY. 2019 MAY; 143: 27-33	Original Article
7	Makiguchi, T; Yokoo, S; Kanno, Y; et al.	形成外科	Risk Factors for Surgical Site Infection in Patients Undergoing Free and Pedicled Myocutaneous Flap Reconstruction After Oral Cancer Resection	JOURNAL OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY. 2019 MAY; 77: 1075-1081	Original Article

小計7

8	Suto, T; Kato, D; Obata, H; et al.	麻酔科蘇生科	Tropomyosin Receptor Kinase B Receptor Activation in the Locus Coeruleus Restores Impairment of Endogenous Analgesia at a Late Stage Following Nerve Injury in Rats	JOURNAL OF PAIN. 2019 MAY; 20: 600-609	Original Article
9	Ogawa, H; Kaira, K; Motegi, Y; et al.	外科診療センター	Role of Amino Acid Transporter Expression as a Prognostic Marker in Patients With Surgically Resected Colorectal Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2019 MAY; 39: 2535-2543	Original Article
10	Kaneko, Y; Nakajima, T; Iizuka, T; et al.	循環器内科	Atypical Fast-Slow Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia Using a Slow Pathway Extending to the Superoanterior Right Atrium	INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 2019 MAY; 60: 756-760	Original Article
11	Koga, Y; Hachisu, Y; Tsurumaki, H; et al.	呼吸器・アレルギー 内科	Pirfenidone Improves Familial Idiopathic Pulmonary Fibrosis without Affecting Serum Periostin Levels	MEDICINA-LITHUANIA. 2019 MAY; 55: -	Original Article
12	Igarashi, T; Harimoto, N; Nobusawa, S; et al.	肝胆膵外科	Evaluation of KRAS Mutation Status in a Patient With Concomitant Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm and Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm	PANCREAS. 2019 MAY-JUN; 48: E34-E35	Letter
13	Sato, K; Yamazaki, Y; Kobayashi, T; et al.	消化器・肝臓内科	Sofosbuvir/Ribavirin therapy for patients experiencing failure of ombitasvir/paritaprevir/riton avir plus ribavirin therapy: Two cases report and review of literature	WORLD JOURNAL OF CLINICAL CASES. 2019 MAY 6; 7: 1043-1052	Review
14	Kurozumi, S; Yamaguchi, Y; Matsumoto, H; et al.	乳腺・内分泌外科	Utility of Ki67 labeling index, cyclin D1 expression, and ER-activity level in postmenopausal ER-positive and HER2-negative breast cancer with neoadjuvant chemo-endocrine therapy	PLOS ONE. 2019 MAY 21; 14: -	Original Article
15	Sakai, M; Sohda, M; Saito, H; et al.	外科診療センター	Docetaxel, cisplatin, and 5- fluorouracil combination chemoradiotherapy for patients with cervical esophageal cancer: a single- center retrospective study	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY. 2019 JUN; 83: 1121-1126	Original Article

小計8

16	Shinohara, Y; Konno, A; Nitta, K; et al.	眼科	Effects of Neutralizing Antibody Production on AAV-PHP.B-Mediated Transduction of the Mouse Central Nervous System	MOLECULAR NEUROBIOLOGY. 2019 JUN; 56: 4203-4214	Original Article
17	Takahashi, H; Sakakura, K; Tada, H; et al.	耳鼻咽喉科	Prognostic significance and population dynamics of peripheral monocytes in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma	HEAD AND NECK- JOURNAL FOR THE SCIENCES AND SPECIALTIES OF THE HEAD AND NECK. 2019 JUN; 41: 1880-1888	Original Article
18	Kurozumi, S; Yamaguchi, Y; Matsumoto, H; et al.	乳腺・内分泌外科	Comparing protein and mRNA expressions of the human epidermal growth factor receptor family in estrogen receptor-positive breast cancer	MEDICAL MOLECULAR MORPHOLOGY. 2019 JUN; 52: 90-98	Original Article
19	Tashiro, M; Kubota, Y; Torikoshi, M; et al.	重粒子線医学セン ター	Divided-volume matching technique for volume displacement estimation of patient positioning in radiation therapy	PHYSICA MEDICA- EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS. 2019 JUN; 62: 1-12	Original Article
20	Takahashi, H; Sakakura, K; Arisaka, Y; et al.	耳鼻咽喉科	Clinical and Biological Significance of PD-L1 Expression Within the Tumor Microenvironment of Oral Squamous Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH. 2019 JUN; 39: 3039-3046	Original Article
21	Sohda, M; Miyazaki, T; Sakai, M; et al.	外科診療センター	Multidisciplinary Therapy for Locally Advanced Oesophageal Cancer With Special Reference to Surgical Conversion and Salvage	ANTICANCER RESEARCH. 2019 JUN; 39: 3167-3175	Original Article
22	Asao, T; Kikuchi, M; Tokumine, J; et al.	先端医療開発セン ター	Optical skill-assist device for ultrasound-guided vascular access A preliminary simulation study	MEDICINE. 2019 JUN; 98: -	Original Article
23	Ohtaki, Y; Shimizu, K; Saitoh, JI; et al.	呼吸器外科	Is salvage surgery for patients with lung cancer after carbon ion radiotherapy easy or difficult?	INTERACTIVE CARDIOVASCULAR AND THORACIC SURGERY. 2019 JUN; 28: 953-956	Original Article

小計8

24	Kurozumi, S; Joseph, C; Sonbul, S; et al.	乳腺・内分泌外科	A key genomic subtype associated with lymphovascular invasion in invasive breast cancer	BRITISH JOURNAL OF CANCER. 2019 JUN 11; 120: 1129-1136	Original Article
25	Ogino, Y; Kawamichi, H; Kakeda, T; et al.	麻酔科蘇生科	Exploring the Neural Correlates in Adopting a Realistic View: A Neural Structural and Functional Connectivity Study With Female Nurses	FRONTIERS IN HUMAN NEUROSCIENCE. 2019 JUN 11; 13: -	Original Article
26	Takasawa, E; Sorimachi, Y; Iizuka, Y; et al.	整形外科	Risk Factors for Rapidly Progressive Neurological Deterioration in Cervical Spondylotic Myelopathy	SPINE. 2019 JUN 15; 44: E723-E730	Original Article
27	Takazawa, T; Sabato, V; Ebo, DG	集中治療部	In vitro diagnostic tests for perioperative hypersensitivity, a narrative review: potential, limitations, and perspectives	BRITISH JOURNAL OF ANAESTHESIA. 2019 JUL; 123: E117-E125	Review
28	Kurozumi, S; Joseph, C; Raafat, S; et al.	乳腺・内分泌外科	Utility of ankyrin 3 as a prognostic marker in androgen-receptor-positive breast cancer	BREAST CANCER RESEARCH AND TREATMENT. 2019 JUL; 176: 63-73	Original Article
29	Yamaguchi, R; Aihara, M; Shimizu, T; et al.	脳神経外科	Angiographical Jaggy Sign of Remnant M2 Occlusion during Acute Mechanical Thrombectomy	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES. 2019 JUL; 28: 1936-1942	Original Article
30	Makiguchi, T; Atomura, D; Nakamura, H; et al.	形成外科	Quantitative assessment and risk factors for chest wall deformity resulting from tissue expansion for breast reconstruction	BREAST CANCER. 2019 JUL; 26: 446-451	Original Article
31	Tazawa, M; Kurosaki, M; Inoue, T; et al.	リハビリテーション部	Superior migration of the femoral head in patients with severe hip osteoarthritis influences the gait patterns of the coronal plane	HIP INTERNATIONAL. 2019 JUL; 29: 446-451	Original Article

32	Murakami, C; Yoshida, Y; Yamazaki, T; et al.	病理部	Clinicopathological characteristics of circumscribed high-grade astrocytomas with an unusual combination of BRAF V600E, ATRX, and CDKN2A/B alternations	BRAIN TUMOR PATHOLOGY. 2019 JUL; 36: 103-111	Original Article
33	Sohda, M; Kuriyama, K; Kumakura, Y; et al.	外科診療センター	Evaluation of Surgical Procedures that Affect the Hemodynamics Using the FloTrac System in Esophageal Cancer Patients	IN VIVO. 2019 JUL-AUG; 33: 1221-1226	Original Article
34	Kubo, N; Kawamura, H; Oike, T; et al.	放射線科	Hypofractionated Intensity-modulated Radiotherapy for Intermediate- and High-risk Prostate Cancer: A Retrospective Study	IN VIVO. 2019 JUL-AUG; 33: 1235-1241	Original Article
35	Todokoro, D; Kamei, S; Goto, H; et al.	眼科	Acute retinal necrosis following herpes simplex encephalitis: a nationwide survey in Japan	JAPANESE JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY. 2019 JUL; 63: 304-309	Original Article
36	Sumiyoshi, H; Ohyama, Y; Imai, K; et al.	循環器内科	Association of Uric Acid with Incident Metabolic Syndrome in a Japanese General Population	INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 2019 JUL; 60: 830-835	Original Article
37	Oshima, K; Aoki, M; Murata, M; et al.	救命・総合医療センター	Levels of Catecholamines in the Plasma of Patients with Cardiopulmonary Arrest	INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 2019 JUL; 60: 870-875	Original Article
38	Tsurumaki, H; Matsuyama, T; Ezawa, K; et al.	呼吸器・アレルギー内科	Rapid Effect of Benralizumab for Hypereosinophilia in a Case of Severe Asthma with Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis	MEDICINA-LITHUANIA. 2019 JUL; 55: -	Original Article
39	Aoki, M; Abe, T; Oshima, K	救命・総合医療センター	Association of Prehospital Epinephrine Administration With Survival Among Patients With Traumatic Cardiac Arrest Caused Traffic Collisions	SCIENTIFIC REPORTS. 2019 JUL 9; 9: -	Original Article

小計8

40	Makiguchi, T; Yamaguchi, T; Nakamura, H; et al.	形成外科	Impact of skeletal muscle mass volume on surgical site infection in free flap reconstruction for oral cancer	MICROSURGERY. 2019 OCT; 39: 598-604	Original Article
41	Miyazawa, Y; Sekine, Y; Shimizu, N; et al.	泌尿器科	An exploratory retrospective multicenter study of prognostic factors in mCRPC patients undergoing enzalutamide treatment: Focus on early PSA decline and kinetics at time of progression	PROSTATE. 2019 SEP; 79: 1462-1470	Original Article
42	Shiba, S; Okamoto, M; Kiyohara, H; et al.	放射線科	Prospective Observational Study of High-Dose Carbon-Ion Radiotherapy for Pelvic Recurrence of Rectal Cancer (GUNMA 0801)	FRONTIERS IN ONCOLOGY. 2019 JUL 31; 9: -	Original Article
43	Tosaka, M; Shimizu, T; Yoshimoto, Y	脳神経外科	Reply to letter Pituitary tumors and oculomotor cistern	ACTA NEUROCHIRURGICA. 2019 AUG; 161: 1707-1708	Letter
44	Harimoto, N; Hoshino, K; Muranushi, R; et al.	肝胆膵外科	Significance of Lymph Node Metastasis in Resectable Well-differentiated Pancreatic Neuroendocrine Tumor	PANCREAS. 2019 AUG; 48: 943-947	Original Article
45	Kubota, Y; Katoh, H; Shibuya, K; et al.	放射線科	Comparison between bone matching and marker matching for evaluation of intra- and inter-fractional changes in accumulated dose of carbon ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY. 2019 AUG; 137: 77-82	Original Article
46	Kasahara, N; Kaira, K; Yamaguchi, K; et al.	呼吸器・アレルギー内科	Fluorodeoxyglucose uptake is associated with low tumor-infiltrating lymphocyte levels in patients with small cell lung cancer	LUNG CANCER. 2019 AUG; 134: 180-186	Original Article
47	Shiba, S; Shibuya, K; Katoh, H; et al.	放射線科	A comparison of carbon ion radiotherapy and transarterial chemoembolization treatment outcomes for single hepatocellular carcinoma: a propensity score matching study	RADIATION ONCOLOGY. 2019 AUG 2; 14: -	Original Article

48	Kim, M; Higuchi, T; Nakajima, T; et al.	歯科口腔・顎顔面外科	F-18-FDG and F-18-FAMT PET-derived metabolic parameters predict outcome of oral squamous cell carcinoma	ORAL RADIOLOGY. 2019 SEP; 35: 308-314	Original Article
49	Takayama, Y; Ono, Y; Mizukami, Y; et al.	病理部	Comparative genome-wide analysis of gastric adenocarcinomas with hyperplastic polyp components	VIRCHOWS ARCHIV. 2019 SEP; 475: 383-389	Original Article
50	Abe, T; Nakano, K; Hirahara, N; et al.	外科診療センター	Current status of cardiovascular surgery in Japan: analysis of data from Japan Cardiovascular Surgery Database in 2015, 2016. 3-Valvular heart surgery	GENERAL THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY. 2019 SEP; 67: 742-749	Review
51	Harimoto, N; Hoshino, K; Muranushi, R; et al.	肝胆膵外科	Prognostic significance of neutrophil-lymphocyte ratio in resectable pancreatic neuroendocrine tumors with special reference to tumor-associated macrophages	PANCREATOLOGY. 2019 SEP; 19: 897-902	Original Article
52	Motegi, S; Sekiguchi, A; Toki, S; et al.	皮膚科	Clinical features and poor prognostic factors of anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis with rapid progressive interstitial lung disease	EUROPEAN JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2019 SEP; 29: 511-517	Original Article
53	Sakai, M; Kubota, Y; Parajuli, RK; et al.	重粒子線医学センター	Compton imaging with Tc-99m for human imaging	SCIENTIFIC REPORTS. 2019 SEP 9; 9: -	Original Article
54	Kawamura, H; Kubo, N; Sato, H; et al.	放射線科	Quality of life in prostate cancer patients receiving pOriginal Article radiotherapy: A review of the literature	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2020 JAN; 27: 24-29	Review
55	Kurozumi, S; Kaira, K; Matsumoto, H; et al.	乳腺・内分泌外科	beta(2)-Adrenergic receptor expression is associated with biomarkers of tumor immunity and predicts poor prognosis in estrogen receptor-negative breast cancer	BREAST CANCER RESEARCH AND TREATMENT. 2019 OCT; 177: 603-610	Original Article

小計8

56	Tsushima, Y; Taketomi- Takahashi, A	核医学科	Shear wave velocity might correlate with portal venous perfusion if correct portal venous perfusion techniques are used	JOURNAL OF MEDICAL ULTRASONICS. 2019 OCT; 46: 515-516	Letter
57	Handa, H; Nishimoto, N; Inoue, M; et al.	血液内科	Human telomerase reverse transcriptase expression in a CD34-positive hematopoietic progenitor of myelodysplastic syndrome and acute myelogenous leukemia	HEMATOLOGICAL ONCOLOGY. 2019 OCT; 37: 520-522	Letter
58	Kubota, Y; Okamoto, M; Li, Y; et al.	放射線科	Evaluation of Intensity- and Contour-Based Deformable Image Registration Accuracy in Pancreatic Cancer Patients	CANCERS. 2019 OCT; 11: -	Original Article
59	Sato, H; Jeggo, PA; Shibata, A	重粒子線医学センター	Regulation of programmed death-ligand 1 expression in response to DNA damage in cancer cells: Implications for precision medicine	CANCER SCIENCE. 2019 NOV; 110: 3415-3423	Review
60	Yokobori, T; Yazawa, S; Asao, T; et al.	外科診療センター	Fucosylated alpha(1)-acid glycoprotein as a biomarker to predict prognosis following tumor immunotherapy of patients with lung cancer	SCIENTIFIC REPORTS. 2019 OCT 10; 9: -	Original Article
61	Hara, Y; Shiba, N; Yamato, G; et al.	小児科	Patients aged less than 3 years with acute myeloid leukaemia characterize a molecularly and clinically distinct subgroup	BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY.. 2020 FEB; 188: 528-539	Original Article
62	Watanabe, A; Harimoto, N; Yokobori, T; et al.	肝胆膵外科	FDG-PET reflects tumor viability on SUV in colorectal cancer liver metastasis	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2020 FEB; 25: 322-329	Original Article
63	Nagashima, K; Makioka, K; Fujita, Y; et al.	脳神経内科	Clinical usefulness of scales for evaluating cognitive impairment in patients with amyotrophic lateral sclerosis	JOURNAL OF THE NEUROLOGICAL SCIENCES. 2019 OCT 15; 405: -	Original Article

64	Kuribayashi, S; Moteji, S; Hara, K; et al.	消化器・肝臓内科	Relationship between esophageal motility abnormalities and skin or lung involvements in patients with systemic sclerosis	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2019 NOV; 54: 950-962	Original Article
65	Handa, H; Murakami, Y; Ishihara, R; et al.	血液内科	The Role and Function of microRNA in the Pathogenesis of Multiple Myeloma	CANCERS. 2019 NOV; 11: -	Review
66	Osone, K; Yokobori, T; Katayama, C; et al.	外科診療センター	STMN1 accumulation is associated with dysplastic and neoplastic lesions in patients with ulcerative colitis	ONCOLOGY LETTERS. 2019 NOV; 18: 4712-4718	Original Article
67	Nobusawa, S; Nakata, S; Yoshida, Y; et al.	病理部	Secondary INI1-deficient rhabdoid tumors of the central nervous system: analysis of four cases and literature review	VIRCHOWS ARCHIV. 2020 MAY; 476: 763-772	Review
68	Kurozumi, S; Alsaeed, S; Orah, N; et al.	乳腺・内分泌外科	Clinicopathological significance of lipocalin 2 nuclear expression in invasive breast cancer	BREAST CANCER RESEARCH AND TREATMENT. 2020 FEB; 179: 557-564	Original Article
69	Kurozumi, S; Inoue, K; Matsumoto, H; et al.	乳腺・内分泌外科	Clinicopathological values of PD-L1 expression in HER2-positive breast cancer	SCIENTIFIC REPORTS. 2019 NOV 13; 9: -	Original Article
70	Ogawa, M; Yokoo, S; Takayama, Y; et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Laboratory Risk Indicator for Necrotizing Fasciitis of the Oro-Cervical Region (LRINEC-OC): A Possible Diagnostic Tool for Emergencies of the Oro-Cervical Region	EMERGENCY MEDICINE INTERNATIONAL. 2019 NOV 14; 2019: -	Original Article
71	Aoki, M; Abe, T	救命・総合医療センター	Comment on epinephrine during resuscitation of traumatic cardiac arrest and increased mortality: a post hoc analysis of prospective observational study	SCANDINAVIAN JOURNAL OF TRAUMA RESUSCITATION & EMERGENCY MEDICINE. 2019 NOV 27; 27: -	Letter

小計8

72	Kuribayashi, S; Iwakiri, K; Shinozaki, T; et al.	消化器・肝臓内科	Clinical impact of different cut-off values in high-resolution manometry systems on diagnosing esophageal motility disorders	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2019 DEC; 54: 1078-1082	Original Article
73	Shimizu, A; Kuriyama, Y; Hasegawa, M; et al.	皮膚科	Nail squamous cell carcinoma: A hidden high-risk human papillomavirus reservoir for sexually transmitted infections	JOURNAL OF THE AMERICAN ACADEMY OF DERMATOLOGY. 2019 DEC; 81: 1358-1370	Review
74	Takayasu, Y; Kubo, N; Shino, M; et al.	耳鼻咽喉科	Carbon-ion radiotherapy combined with chemotherapy for head and neck mucosal melanoma: Prospective observational study	CANCER MEDICINE. 2019 DEC; 8: 7227-7235	Original Article
75	Kubo, N; Kubota, Y; Kawamura, H; et al.	放射線科	Dosimetric parameters predictive of nasolacrimal duct obstruction after carbon-ion radiotherapy for head and neck carcinoma	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY. 2019 DEC; 141: 72-77	Original Article
76	Ishii, N; Harimoto, N; Araki, K; et al.	肝胆膵外科	Preoperative Mac-2 binding protein glycosylation isomer level predicts postoperative ascites in patients with hepatic resection for hepatocellular carcinoma	HEPATOLOGY RESEARCH. 2019 DEC; 49: 1398-1405	Original Article
77	Tojima, H; Kakizaki, S; Takakusagi, S; et al.	消化器・肝臓内科	Favorable outcome of retreatment by direct-acting antivirals for hepatitis C patients with daclatasvir plus asunaprevir combination therapy failure	HEPATOLOGY RESEARCH. 2020 MAR; 50: 303-312	Original Article
78	Murakami, C; Ikota, H; Nobusawa, S; et al.	病理部	Oligodendroglioma showing pleomorphic xanthoastrocytoma-like perivascular microlesion: With IDH1, TERT promoter mutation and 1p/19q codeletion detected in both components	PATHOLOGY INTERNATIONAL. 2020 JAN; 70: 40-46	Original Article
79	Arakawa, H; Shimojo, N; Katoh, N; et al.	小児科	Consensus statements on pediatric atopic dermatitis from dermatology and pediatrics practitioners in Japan: Goals of treatment and topical therapy	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2020 JAN; 69: 84-90	Original Article

80	Tajika, T; Oya, N; Ichinose, T; et al.	整形外科	Relation between grip and pinch strength and pitch type in high school pitchers with and without elbow symptoms	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC SURGERY. 2020 JAN; 28: -	Original Article
81	Tsukagoshi, S; Furuta, M; Hirayanagi, K; et al.	脳神経内科	Noninvasive and quantitative evaluation of movement disorder disability using an infrared depth sensor	JOURNAL OF CLINICAL NEUROSCIENCE. 2020 JAN; 71: 135-140	Original Article
82	Shiba, S; Shibuya, K; Kawashima, M; et al.	重粒子線医学センター	Comparison of Dose Distributions When Using Carbon Ion Radiotherapy Versus Intensity-modulated Radiotherapy for Hepatocellular Carcinoma With Macroscopic Vascular Invasion: A Retrospective Analysis	ANTICANCER RESEARCH. 2020 JAN; 40: 459-464	Original Article
83	Kawamura, H; Kubo, N; Sato, H; et al.	放射線科	Moderately hypofractionated carbon ion radiotherapy for prostate cancer; a prospective observational study GUNMA0702	BMC CANCER. 2020 JAN 30; 20: -	Original Article
84	Kuribayashi, S; Motegi, S; Hara, K; et al.	消化器・肝臓内科	Response to the letter by Dr. Costa-Moreira, Dr. Peixoto, Dr. Ramalho, and Dr. Macedo regarding our manuscript: Relationship between esophageal motility abnormalities and skin or lung involvements in patients with systemic sclerosis	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2020 FEB; 55: 246-247	Letter
85	Sakurai, R; Kaira, K; Miura, Y; et al.	腫瘍センター	Clinical significance of topoisomerase-II expression in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with amrubicin	THORACIC CANCER. 2020 FEB; 11: 426-435	Original Article
86	Sohda, M; Kuriyama, K; Yoshida, T; et al.	外科診療センター	Comparable Data Between Double Endoscopic Intraluminal Operation and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Esophageal Cancer	JOURNAL OF GASTROINTESTINAL SURGERY. 2020 FEB; 24: 307-312	Original Article
87	Furuta, M; Furuta, N; Nagashima, K; et al.	脳神経内科	Differential and quantitative neuroimaging characteristics of inclusion body myositis	JOURNAL OF CLINICAL NEUROSCIENCE. 2020 FEB; 72: 244-251	Original Article

88	Araki, K; Harimoto, N; Kubo, N; et al.	肝胆膵外科	Functional remnant liver volumetry using Gd-EOB- DTPA-enhanced magnetic resonance imaging (MRI) predicts post-hepatectomy liver failure in resection of more than one segment	HPB. 2020 FEB; 22: 318-327	Original Article
89	Tsukagoshi, M; Yokobori, T; Yajima, T; et al.	肝胆膵外科	Skeletal muscle mass predicts the outcome of nivolumab treatment for non-small cell lung cancer	MEDICINE. 2020 FEB; 99: -	Original Article
90	Makiguchi, T; Yamaguchi, T; Nakamura, H; et al.	形成外科	Impact of skeletal muscle mass on postoperative delirium in patients undergoing free flap repair after oral cancer resection	JOURNAL OF PLASTIC SURGERY AND HAND SURGERY. 2020 JUN 1; 54: 161-166	Original Article
91	Shimizu, A; Toyoda, A; Motegi, S; et al.	皮膚科	First Japanese case of trichoepithelioma papulosum multiplex successfully treated with sirolimus gel	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 MAY; 47: E197-E198	Letter
92	Yajima, T; Shimizu, K; Mogi, A; et al.	呼吸器外科	Medial-basal segment (S-7)- sparing right basal segmentectomy	GENERAL THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY. 2020 MAR; 68: 306-309	Original Article
93	Sakai, M; Sohda, M; Saito, H; et al.	外科診療センター	Comparative Analysis of Immunoinflammatory and Nutritional Measures in Surgically Resected Esophageal Cancer: A Single-center Retrospective Study	IN VIVO. 2020 MAR-APR; 34: 881-887	Original Article
94	Fujii, T; Tokuda, S; Nakazawa, Y; et al.	乳腺・内分泌外科	Eribulin Suppresses New Metastases in Patients With Metastatic Breast Cancer	IN VIVO. 2020 MAR-APR; 34: 917-921	Original Article
95	Tada, H; Takahashi, H; Kuwabara- Yokobori, Y; et al.	耳鼻咽喉科	Molecular profiling of circulating tumor cells predicts clinical outcome in head and neck squamous cell carcinoma	ORAL ONCOLOGY. 2020 MAR; 102: -	Original Article

96	Yajima, T; Mogi, A; Shimizu, K; et al.	呼吸器外科	Quantitative analysis of metabolic parameters at F-18-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in predicting malignant potential of anterior mediastinal tumors	ONCOLOGY LETTERS. 2020 MAR; 19: 1865-1871	Original Article
97	Suto, T; Saito, S; Tobe, M; et al.	麻酔科蘇生科	Reduction of Arterial Oxygen Saturation Among Rescuers During Cardiopulmonary Resuscitation in a Hypobaric Hypoxic Environment	WILDERNESS & ENVIRONMENTAL MEDICINE. 2020 MAR; 31: 97-100	Original Article
98	Kaneko, Y; Nakajima, T; Iizuka, T; et al.	循環器内科	Atypical Slow-Slow Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia with Use of a Superior Slow Pathway	INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 2020 MAR; 61: 380-383	Original Article
99	Motegi, SI; Sekiguchi, A; Sekine, Y; et al.	皮膚科	Prevalence and clinical characteristics of overactive bladder in systemic sclerosis	MODERN RHEUMATOLOGY. 2020 MAR 3; 30: 327-331	Original Article
100	Sakai, M; Parajuli, RK; Kubota, Y; et al.	重粒子線医学センター	Improved iterative reconstruction method for Compton imaging using median filter	PLOS ONE. 2020 MAR 6; 15: -	Original Article

小計5

計100件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 ○ 病院長の責務，臨床研究審査委員会の業務内容，臨床研究の申請・依頼等の受付方法，責任医師及び分担医師等の業務内容，他の研究機関から IRB 審査依頼があった場合の対応等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し，適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 ○ 「国立大学法人群馬大学利益相反マネジメント規程」 利益相反マネジメント対象の範囲，利益相反マネジメントの対象，利益相反マネジメントのための調査，利益相反申告書等の保存，学外への情報公開，利益相反管理昭和地区部会の設置等 ○ 「群馬大学利益相反管理昭和地区部会内規」 部会の審議事項，部会の組織，部会長の選出，研究科長等への報告等	
③ 利益相反を審査し，適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 8 回
・研修の主な内容 ○ 群馬大学医学部附属病院・昭和地区キャンパス「臨床試験に関する講習会」 治験・臨床研究に関して、大学病院臨床試験アライアンスと共催で、「臨床試験に関する講習会」を群馬大学医学部附属病院内で 8 回開催した。倫理指針で定める受講を研究者及び研究を実施する際の事務に従事する者、研究者の補助業務に当たる者に義務付けている。 <各回の開催日時、演題、参加人数等> 第 1 回 平成 31 年 4 月 22 日（月）18 時～19 時 参加者数 257 名 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と臨床研究法施行規則の要点について」 臨床試験部 中村 哲也 第 2 回 令和元年 5 月 24 日（金）18 時～19 時 参加者数 176 名 「患者と国民が研究開発に期待すること」 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長 天野 慎介 先生 第 3 回 令和元年 6 月 12 日（水）18 時～19 時 参加者数 141 名 「EBM の 5 つのステップと診療ガイドライン～公益財団法人日本医療機能評価機構 発行 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2017 重要用語集～」 臨床試験部 中村 哲也	

第4回 令和元年7月26日（金）16時～17時 参加者数 162名

「文部科学省における健康・医療分野の研究開発の推進について」

文部科学省研究振興局 研究振興戦略官 吉田 光成 先生

第5回 令和元年11月1日（金）18時～19時 参加者数 55名

「医療現場における倫理－臨床試験に関与した患者の語りから－」

群馬パース大学保健学部教養教育/大学院保健科学研究科 講師 吉田 幸恵 先生

第6回 令和元年12月23日（月）18時～19時 参加者数 52名

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と臨床研究法施行規則の要点について」

臨床試験部 中村 哲也

第7回 令和2年1月22日（水）18時～19時 参加者数 39名

「臨床研究のモニタリングと監査について」

臨床試験部 中村 哲也

第8回 令和2年3月4日（水）18時～19時 参加者数 44名

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と臨床研究法施行規則の要点について」

臨床試験部 中村 哲也

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では、医学部附属病院の優れた教育機能を十分に活用し、充実した関連病院との連携のもとで、次代を担う実力ある専門医を養成している。具体的には、初期臨床研修で磨いた診療能力をさらに高め、各専門領域の学会認定専門医の取得を目指すための、後期専門研修プログラムを運用している。

当院の後期専門研修プログラム・コース一覧は、下記のとおり。

【令和元年度 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修プログラム・コース一覧】

プログラム ・コース 運営診療科	プログラム ・コース名	受 入 人 数	プログラム ・コース 責任者名	各プログラム・コース で取得を目指す基 本領域専門医資格	基本領域専門医資格取得後に可能なサブスペシャ ルティ研修 (資格名/学会等名)	サブスペシャ ルティ研修担 当医名
循環器内科	群馬大学内 科専門医プ ログラム	30	山田 正信	内科専門医/日本内 科学会	総合内科専門医/日本内科学会	倉林 正彦 金古 善明 笠間 周 高間 典明 船田 竜一
					循環器専門医/日本循環器学会	
					心血管インターベンション認定医・専門医/日本心 血管インターベンション治療学会	
					不整脈専門医/日本不整脈学会	
					超音波専門医/日本超音波医学会	
					核医学専門医/日本核医学会	
呼吸器・アレ ルギー内科					総合内科専門医/日本内科学会	前野 敏孝
					呼吸器専門医/日本呼吸器学会	
					アレルギー専門医/日本アレルギー学会	
					感染症専門医/日本感染症学会	
					気管支鏡専門医/日本呼吸器内視鏡学会	
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	
消化器・肝臓 内科					総合内科専門医/日本内科学会	河村 修
					消化器病専門医/日本消化器病学会	
					消化器内視鏡専門医/日本消化器内視鏡学会	
					胃腸専門医/日本消化管学会	
					総合内科専門医/日本内科学会	柿崎 暁
					肝臓専門医/日本肝臓学会	
					消化器病専門医/日本消化器病学会	
					消化器内視鏡専門医/消化器内視鏡学会	
内分泌糖尿 病内科					総合内科専門医/日本内科学会	岡田 秀一 小澤 厚志
					内分泌代謝科専門医/日本内分泌学会	
					糖尿病専門医/日本糖尿病学会	
					甲状腺専門医/日本甲状腺学会	
腎臓・リウマ チ内科					総合内科専門医/日本内科学会	廣村 桂樹
					腎臓専門医/日本腎臓学会	
					透析専門医/日本透析医学会	
					リウマチ専門医/日本リウマチ学会	
血液内科					総合内科専門医/日本内科学会	半田 寛
					血液専門医/日本血液学会	
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	
					輸血細胞治療学会認定医/日本輸血・細胞治療学会	

					造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
					がん治療認定医／がん治療認定医機構	
脳神経内科					神経内科専門医／日本神経学会	藤田 行雄
					総合内科専門医／日本内科学会	
					認知症専門医／日本認知症学会	
循環器外科					心臓血管外科専門医／心臓血管外科専門医認定機構	阿部 知伸 吉住 朋 立石 渉
呼吸器外科					呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会	茂木 晃
					外科指導医／日本外科学会	清水 公裕
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	伊部 崇史 矢島 俊樹
消化管外科					外科指導医／日本外科学会	
					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	宗田 真
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	小川 博臣
					食道科認定医・食道外科専門医／日本食道学会	緒方 杏一
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	酒井 真
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	茂木 陽子
					臨床腫瘍学会暫定指導医／日本臨床腫瘍学会	木暮 憲道
					大腸肛門病専門医・指導医／日本大腸肛門病学会	高橋 遼
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					胃腸科認定医・専門医・指導医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会	
肝胆膵外科					外科指導医／日本外科学会	播本 憲史
					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	新木健一郎
					肝胆膵外科高度技能専門医／日本肝胆膵外科学会	久保 憲生
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	渡辺 亮
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					肝臓専門医／日本肝臓学会	
乳腺・内分泌外科					乳腺専門医／日本乳癌学会	藤井 孝明
					内分泌・甲状腺外科専門医／日本内分泌外科学会	尾林紗弥香
					外科指導医／日本外科学会	平方 智子
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
小児外科					小児外科専門医／日本小児外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					小児がん認定外科医／日本小児血液・がん学会	
					小児泌尿器科認定医／日本小児泌尿器科学会	鈴木 信
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					胃腸科専門医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
泌尿器科	群馬大学泌尿器科専門研修プログ	7	鈴木 和浩	泌尿器科専門医／日本泌尿器科学会	透析専門医／日本透析医学会	柴田 康博
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	関根 芳岳
					腎移植認定医／日本臨床腎移植学会	野村 昌史

	ラム				泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会	
					生殖医療専門医／日本生殖医学会	
整形外科	群馬大学整形外科専門研修プログラム	11	筑田 博隆	整形外科専門医／日本整形外科学会	スポーツ医／日本整形外科学会 脊椎脊髄病医／日本整形外科学会 リウマチ医／日本整形外科学会 リウマチ専門医／日本リウマチ学会 手外科専門医／日本手外科学会 脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会	設楽 仁 飯塚 陽一 米本由木夫 田鹿 毅
皮膚科	群馬大学皮膚科専門研修プログラム	8	石川 治	皮膚科専門医／日本皮膚科学会	皮膚悪性腫瘍指導専門医／日本皮膚科学会 皮膚美容科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会	茂木精一郎 安田 正人
眼科	群馬大学眼科専門研修プログラム	7	秋山 英雄	眼科専門医／日本眼科学会	眼科光線力学的療法認定医／眼科 PDT 研究会	秋山 英雄
耳鼻咽喉科	群馬大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム	5	近松 一朗	耳鼻咽喉科専門医／日本耳鼻咽喉科学会	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会 頭頸部がん専門医／日本頭頸部外科学会 気管食道科専門医／日本気管食道科学会 アレルギー専門医／日本アレルギー学会	新國 摂 高安 幸弘 紫野 正人 鎌田 英男
精神科神経科	精神科専門医研修プログラム	若干名	福田 正人	精神科専門医／日本精神神経学会	精神保健指定医／厚生労働省 精神科専門医指導医／日本精神神経学会 一般病院連携精神医学専門医／日本総合病院精神医学学会 一般病院連携精神医学専門医指導医／日本総合病院精神医学学会 精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法) 法令による資格 日本児童青年精神医学会認定医／日本児童青年精神医学会	藤平 和吉 須田 真史 武井 雄一 小野 樹郎
麻酔科蘇生科	群馬大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム	25	齋藤 繁	麻酔科専門医／日本麻酔科学会	麻酔科専門医／日本麻酔科学会 集中治療専門医／日本集中治療医学会 ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会	高澤 知規 荻野 祐一
脳神経外科	群馬大学医学部附属病院脳神経外科専門研修プログラム	12	好本 裕平	脳神経外科専門医／日本脳神経外科学会	脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会 脳卒中専門医／日本脳卒中学会 がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫瘍学会 機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外科学会 救急科専門医／日本救急医学会、日本神経外傷学会 脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会 神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小児神経外科学会	登坂 雅彦 藍原 正憲 清水 立矢 堀口 桂志 本多 文昭 山口 玲 大澤 匡
小児科	群馬大学医学部附属病	12	荒川 浩一	小児科専門医／日本小児科学会	アレルギー専門医／日本アレルギー学会 血液専門医／日本血液学会	滝沢 琢己 奥野はるな

	院小児科専門研修プログラム				がん治療認定医／日本がん治療認定医機構 腎臓専門医／日本腎臓病学会 新生児専門医／日本周産期・新生児医学会 小児神経専門医／日本小児神経学会 小児栄養消化器肝臓認定医／日本小児栄養消化器肝臓学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	小林 靖子 藤生 徹 緒方 朋実 羽鳥 麗子 本島 敏乃
産科婦人科	群馬大学医学部附属病院産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム	7	岩瀬 明	産科婦人科専門医／日本産科婦人科学会	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会 生殖医療専門医／日本生殖医学会 内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会 内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会 婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会	亀田 高志 岸 裕司 平川 隆史
放射線科	群馬大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム	12	中野 隆史	放射線科専門医／日本医学放射線学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会	河村 英将
核医学科			対馬 義人	放射線科専門医／日本医学放射線学会	放射線診断専門医／日本医学放射線学会 核医学専門医／日本核医学会 IVR 専門医／日本 IVR 学会 超音波専門医／日本超音波医学会	樋口 徹也 高橋 綾子
検査部・感染制御部	群馬大学臨床検査専門研修プログラム	2	村上 正巳	臨床検査専門医／日本臨床検査医学会	ICD(インフェクションコントロール)／ICD 制度協議会 感染症専門医／日本感染症学会 人間ドック健診専門医／日本人間ドック学会 超音波専門医／日本超音波医学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会 細胞診専門医／日本臨床細胞学会 消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会 臨床神経生理専門医／日本臨床神経生理学会	徳江 豊 木村 孝穂 奈良 誠人 常川 勝彦 藤田 明弘 黒沢 幸嗣 荒木 修
集中治療部	59:集中治療専門医コース	5	齋藤 繁	—	集中治療専門医／日本集中治療医学会	日野原 宏
病理部	群馬大学医学部病理専門研修プログラム	3	小山 徹也	病理専門医／日本病理学会		横尾 英明
リハビリテーション部	群馬大学リハビリテーション科専門研修プログラム	3	和田 直樹	リハビリテーション科専門医／日本リハビリテーション医学会		田澤 昌之
救急科	群馬大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム	3	大嶋 清宏	救急科専門医／日本救急医学会	外傷専門医／日本外傷学会 集中治療専門医／日本集中治療医学会	萩原 周一
総合医療部	67:群馬大学医学部附属病院家庭医	3	田村 遼一	家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	総合内科専門医／日本内科学会 家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会 認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	小和瀬桂子

	療後期研修プログラム (平成 26 年度以前の卒業生向けプログラム)				老年病専門医／日本老年医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
	群馬大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム(平成 27 年度以後の卒業生向けプログラム)	3		総合診療専門医	未定(協議中)	
					認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
					老年病専門医／日本老年医学会	

※形成外科領域については、神戸大学の神戸大学形成外科研修プログラムの連携施設として専門研修が可能です。

専攻医として一般社団法人日本専門医機構が認定する基本領域の専門医の取得を目指す者の身分を、群馬大学医学部附属病院シニアレジデントとしている。

(当院のシニアレジデント制度の特色)

1. 大学病院／関連病院の優れた指導医のもとで、専門医修得に必要な多くの症例／手技を経験できる。
2. サブスペシャリティ分野につながる幅広い経験を積むことができる。
3. 大学院・社会人大学院に入学し、研修と研究の両立を目指すことができる。
4. 国内及び海外留学を積極的に勧める。
5. 希望者は、群馬大学医学部附属病院医師ワークライフ支援プログラムを利用することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	119人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
倉林 正彦	循環器内科	教授	38年	
前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	准教授	27年	
浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	教授	25年	
山田 正信	内分泌糖尿病内科	教授	36年	
廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	教授	30年	
半田 寛	血液内科	准教授	29年	
池田 佳生	脳神経内科	教授	27年	
福田 正人	精神科神経科	教授	36年	
滝沢 琢己	小児科	准教授	24年	

佐伯 浩司	消化管外科	教授	25年	
調 憲	肝胆膵外科	教授	33年	
調 憲	呼吸器外科	教授	33年	
阿部 知伸	循環器外科	教授	27年	
藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	准教授	19年	
鈴木 信	小児外科	准教授	19年	
筑田 博隆	整形外科	教授	24年	
茂木 精一郎	皮膚科	准教授	20年	
鈴木 和浩	泌尿器科	教授	30年	
秋山 英雄	眼科	教授	23年	
近松 一郎	耳鼻咽喉科	教授	30年	
大野 達也	放射線科	教授	26年	
対馬 義人	核医学科	教授	31年	
岩瀬 明	産科婦人科	教授	24年	
齋藤 繁	麻酔科蘇生科	教授	33年	
横尾 聡	歯科口腔・顎顔面外科	教授	32年	
好本 裕平	脳神経外科	教授	36年	
村上 正己	検査部	教授	37年	
徳江 豊	感染制御部	准教授	34年	
対馬 義人	放射線部	教授	31年	
齋藤 繁	集中治療部	教授	33年	
横尾 英明	病理部	教授	27年	
大嶋 清宏	救命・総合医療センター (救急部門)	教授	27年	
田村 遵一	救命・総合医療センター (総合診療部門)	教授	37年	
和田 直樹	リハビリテーション科	教授	24年	
中村 哲也	臨床試験部	教授	37年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
 - ・ 研修の期間・実施回数
 - ・ 研修の参加人数
- キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－①）2019年6月17日…35名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－②）計2回 2019年11月28日…36名
2020年2月14日…31名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－③）2019年7月11日…38名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－④）2019年9月5日…36名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－⑤）2019年10月10日…42名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ－⑥）2019年12月16日…39名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅡ－1－①）2019年6月3日…38名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅡ－1－②）2019年7月26日…11名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅡ－2）2019年9月6日…11名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅡ－3）2019年10月4日…11名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅡ－4）2019年11月1日…11名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅠ－①）2019年9月10日…28名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅠ－②）2019年10月8日…31名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅡ－①）2019年11月5日…15名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅡ－②）2019年12月5日…18名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅠ－①）2019年7月30日…42名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅠ－②）2019年9月27日…45名

- キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅡ－①）2019年10月11日…23名
- キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅡ－②）2019年10月25日…20名
- 児童虐待防止講演会 2020年2月18日…56名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
- ラダーレベル研修（リーダーシップⅠコーチング基礎） 2019年7月20日…41名
- ラダーレベル研修（リーダーシップⅡ） 2020年1月25日…21名
- 令和2年度新規採用職員研修 e-learning＋資料配布で実施 316名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
- 「化学療法について」2019年7月11日…72名
- 「放射線療法について」2019年9月5日…59名
- 「緩和ケアについて」2019年10月10日…72名
- 「手術療法について：胃がん」2019年11月28日…56名
- 「厚生労働省緩和ケア研修会標準プログラムに準拠の緩和ケア研修会」
2019年4月14日…35名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長：田村 遵一
管理担当者氏名	総務課長：渡辺 英雄、医事課長：加藤 幸生

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	診療録による管理(電子媒体及び紙媒体) 診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについては、診療情報管理規程により、原則として診療記録は所持できないと定めている。例外として、診療情報管理担当者に許可を得て医学研究教育及び病院管理又は診療統計に必要な資料の作成のため、複製を所持することができる。電子媒体で診療記録の複写を所持する場合は、各自が保有する電子化された患者個人情報の保護に関する取扱いに定めている。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	システム統合センター 薬剤部	
		手術記録	システム統合センター 医事課	
		看護記録	システム統合センター 医事課	
		検査所見記録	システム統合センター 医事課	
		エックス線写真	システム統合センター 各診療科	
		紹介状	システム統合センター 医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	システム統合センター 医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	紙媒体のファイルを保管、整理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサプライセンター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	監査室（大学本部）
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課、医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室（大学本部）
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課（大学本部）

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別			1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名			病院長：田村 遵一		
閲覧担当者氏名			総務課長：渡辺 英雄		
閲覧の求めに応じる場所			医学部附属病院		
閲覧の手続の概要					
閲覧希望者がいた場合には総務課にて対応している。					

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ○ 当院における安全管理の基本的考え方：安全文化の育成 ○ 医療安全を推進するための委員会等の設置 ○ 職員に対する研修の基本方針 ○ 事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○ 事故発生時の対応に関する基本方針 ○ 情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針） ○ 患者相談への対応に関する基本方針 ○ その他の医療安全のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： ○ 医療業務安全管理委員会 ・ 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること ・ 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従事者への周知に関すること ・ 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること ・ 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療の質・安全管理部への報告の実施の状況の確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること ・ 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の過程では必要がない処置又は治療が必要となったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療の質・安全管理部への報告の実施の状況に関する確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること ・ 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための本院職員への研修及び指導に関すること ・ 医療の質・安全管理部が行う医療安全に資する診療内容のモニタリングの内容に関すること	

・ 本院の全職員に受講させる医療安全に関する研修に関する事 ・ 医療業務の安全管理指針に係る病院長への提言に関する事 ・ その他医療業務の安全管理に関する必要な事項 ○ 医療事故防止専門委員会 ・ 医療事故防止マニュアルに関する事 ・ インシデント及びアクシデントに係る調査及び改善に関する事 ・ 医療事故防止のための資料収集に関する事 ・ 職員に対する医療事故防止の啓発及び研修に関する事 ・ その他医療事故防止対策に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 9 回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 医療安全職員研修 ・ 『特定機能病院にふさわしい医療の質・安全レベルを高めるために』 ・ 『医療事故に遭遇した遺族のおもいと提言』 ・ 『医療事案への対応時の注意点～弁護士からのアドバイス～』 ・ 『性の多様性を認める自由なキャンパスをめざして』 ・ 『過重労働を予防するための取り組み』 ・ 『インフォームド・コンセント研修～よりよいICのために～』 ・ 『医薬品の安全を支える情報システム - 情報システムのピットホール - 』 ○ 医療安全セミナー ・ 『患者さんからの相談・苦情の対応等について』 ・ 『医療現場における身体拘束のあり方を考える』 ・ 『医療の質・安全向上 (QI) と院内肺血栓塞栓症予防マニュアルについて』 ・ 『安全な鎮静のためにできること』 ○ 虐待等防止に関する研修会 ・ 『当院の虐待事例報告（DV、高齢者虐待等について）』 ・ 『高齢者虐待、障害者虐待、DV 疑い症例への対応マニュアルについて』 ○ CVC体制説明会 ・ 『安全なCVC実施のために』 ・ 『DSU使用手順について』	

○ 医療機器講習会

- ・『人工呼吸器の基礎と当院の運用方法』
- ・『除細動器・AEDの管理』

○ CAPS講演会

- ・『父と義母に虐待されてきた人が大人になるまでの話』

○ 院内救命講習（全10回）

○ ポケットマニュアルに関するe-learning（医療職必須）

○ TeamSTEPPS研修（全12回）

※ 各研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向けて、研修内容を録画したDVD上映やe-learningを活用し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。

※ 年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修の受講率は100%である。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無）

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

○ 各部門にリスクマネージャー81名を配置。（R2.3.1現在）

- 部署、医療の質・安全管理部、各委員会において分析、対策立案を行い、実施状況を確認。院内へ向け、リスクマネージャー会議内容及び『医療安全情報』を発信している。医療の質・安全管理部及び各種委員会での検討事項を各部署にフィードバックし、日々及び定期の巡視等でその実施状況を確認している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	⑤・無
・ 指針の主な内容： ○ 病院感染対策に関する基本的な考え方 ○ 感染対策委員会及び感染制御部 ○ 職員研修 ○ 病院感染発生の状況調査並びに病院感染発生時の対応 ○ 病院感染対策マニュアル ○ 患者への情報提供と説明 ○ その他の病院感染対策の方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ○ 感染対策の実施及び指導 ○ 感染対策に関する必要事項の検討 ○ 感染症の情報収集、整理、解析及び対策 ○ 感染症の解析結果の迅速な情報提供 ○ 感染症の継続的観察及び対策実施後の評価 ○ 感染症に関する啓発、講習、教育 ○ 感染防止のためのガイドライン及びマニュアルの整備	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 感染対策研修 ・ 『感染対策について知っていて欲しいこと』 ・ 『抗菌薬の使い方』 ・ 『医療関連感染サーベイランス』 ・ 『当院の抗菌薬使用動向』 ・ 『耐性菌で病院が潰れないための前橋日赤の感染対策』 ※ 各研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向けて、研修内容を録画したDVD上映やe-learningを活用し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※ 年2回の受講が義務付けられている院内感染対策研修の受講率は100%である。	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 毎週感染制御部ミーティングで各部署の感染症の発生状況を確認し、感染対策および感染症治療の内容を検討し、問題点がある場合は現場へICT巡視およびAST巡視を通じてフィードバックしている。
 - 毎月テーマを決めて感染対策委員会巡視として院内の環境等の視察を行い、評価及び改善指導を行っている。
 - 4職種で構成されたICTメンバーによる院内ラウンドを毎週行い患者毎の感染対策の遵守状況を確認している。
 - 抗菌薬適正使用支援として、感染症治療に関するコンサルテーション、血液培養陽性者および広域抗菌薬使用患者のスクリーニングを毎日行っているほか、毎週ASTラウンドを行ない抗菌薬適正使用の推進を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
- 研修の主な内容： ○ 新入職者全員を対象にした医薬品の取扱いについての講義 ○ 新任の全医療職者を対象にした「麻薬の取扱い」の講義 ○ 看護部開催の新人看護師を対象にした「静脈注射研修会」の講義(注射薬(ハイリスク薬)の取扱い等	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (④・無) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」を平成30年12月28日付で発出された「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアルの改訂について」に基づき見直し(改訂準備)を行った(2019年7月に改訂)。 ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」に基づいた業務の実施状況について、チェックリストにより毎月確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ○ Stiff-person syndromeに対する免疫グロブリン他医療静注療法 ○ 潰瘍性大腸炎に対するシクロスポリン療法 ○ 日本海裂頭条虫に対するプラジカンテル療法 - その他の改善のための方策の主な内容： ○ 処方箋の疑義照会による情報把握 ○ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信(PMDAメディナビ) ○ 製薬企業のMRからの情報収集 ○ 病棟担当薬剤師からの情報提供 ○ 臨床倫理委員会専門委員会で承認された未承認薬や適応外の医薬品の使用状況を確認し、把握している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年144回 (医療機器等) 年11回 (放射線機器)
・ 研修の主な内容： ○ 医療機器については、装置の有効性・安全性及び操作方法、トラブル対応、保守点検等について受講者に対して説明を行っている。 ○ リニアックおよびマイクロセレクトロンなどの放射線機器については、装置の有効性、使用方法、保守点検、不具合対応、法令遵守等の項目について、定期的に部門主任が部門の診療放射線技師、看護師を対象に実施した。また、ローテーションで新たに配属された診療放射線技師にも新規者向け研修を実施した。重粒子部門では、学会、セミナー参加をもって研修に充てた。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○ 輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸ポンプ、除細動装置、下肢圧迫装置、電気メス、内視鏡装置等は院内で臨床工学技士が保守点検計画を立てて、実施している。 ○ 人工呼吸器、閉鎖式保育器、人工心肺装置、血液浄化装置、麻酔器、手術台等は臨床工学技士が保守点検計画を立ててメーカーに実施依頼している。 ○ リニアック、マイクロセレクトロン、重粒子線治療装置は保守契約を結び保守点検を実施。他の放射線機器についても保守契約、スポット点検にて保守を実施しており、契約を結ばない装置については自主点検を実施した。 ○ 隔月で開催されているME機器等管理・運用委員会にて、保守点検状況を報告している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○ PMDAからの情報及びメーカーからの案内を元に情報収集を行い、医療機器等の改修案内等はME機器等管理・運用委員会にて医療機器安全管理責任者に報告している。また、MEサプライセンターのホームページに掲載している。	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 未承認等の医療機器を使用する際又は医療機器の適応外使用する際は、担当医が先端医療開発センターの担当窓口に申請し、同センターから臨床倫理委員会専門委員会に諮って審議し、その結果に基づき同センターが使用について決定した後に医療機器安全管理責任者に報告している。
- 老朽化した放射線機器について、各メーカーからの情報提供および提案を促し、機器更新に繋げた。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○ 副病院長を医療安全管理責任者に選任し、医療業務安全管理委員会において下記部門及び責任者から医療安全に関する報告を行わせ、状況を確認している。 医療安全管理部門 ＝医療の質安全管理部 医療安全管理委員会 ＝医療業務安全管理委員会 医薬品安全管理責任者 ＝薬剤部長 医療機器安全管理責任者＝病院長補佐（材料・薬品担当）	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（6名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○ 医薬品安全管理責任者の指示により、薬剤部 DI センター担当者 (DI センター主任) が担当している。採用医薬品について、医薬品添付文書情報の確認、医薬品医療機器総合機構からのメール受信、医薬品製造販売業者や行政機関、学術雑誌からの情報収集を行い管理している。また情報収集した内容で周知が必要と思われる情報については、処方医や診療科への書面の周知の他、全職員へのメール送信や毎月発行している DI ニュースで院内職員に周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ○ 薬剤部内の高度薬物療法研究開発部門 (部門担当者は兼任。教員、DI 担当者等が担当。主担当者は DI 主任。) が未承認薬等の使用に関する状況を把握している。使用に関する情報は、薬剤師 GRM や、薬剤部から委員として出席している臨床倫理専門委員会等から収集している。 未承認新規医薬品等の使用については、院内に設置されている先端医療開発センターへ申請を行い、必要に応じて臨床倫理委員会専門委員会での使用の可否を決定している。 ・ 担当者の指名の有無（有・無） ・ 担当者の所属・職種：（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（DI 主任））	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ○ 「群馬大学医学部附属病院医療行為等の説明及び同意の取得に関する規程」 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ○ 医療行為等の説明に関する責任者の指定（医療の質・安全管理部長）、説明書による説明及び同意書の取得が必要な医療行為等の明示、説明内容、人権及び自己決定権の尊重、同席者について。 ○ その他「インフォームド・コンセントに関する指針」において、看護師の同席や役割、カルテ等への記録方法も含め、具体的に明示している。 ○ 侵襲的医療行為に関する説明同意文書については、必要な事項を網羅した書式及び形式を整えた「雛型」を各診療科等に明示し、これを基に各診療科等で作成した説明同意文書を臨床倫理委員会専門委員会で承認する体制を構築している。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○ 診療情報管理部長が診療録等の管理に関する責任者を兼任しており、そのもとで以下の業務を行っている。 ○ 診療録の記載内容について、多職種によるピアレビューを年2回実施している。その結果を全診療科にフィードバックし、また評価の低い診療科には、改善計画書の提出を求めている。 ○ 診療情報管士によるカルテレビューを行い、毎月2～3診療科に対して良い点や改善点をフィードバックしている。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち医師：専従（3）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること	

・ 活動の主な内容：

- 医療の質・安全の向上に関すること全般
- 医療業務安全管理委員会、事故防止専門委員会、事故調査専門委員会及びリスクマネージャー会議の審議事項に係る助言並びに当該会議等の資料・議事録の作成及び保存等
- 医療事故発生時の即時対応並びに事故調査専門委員会開催の判断
- 事故等に関する診療録・看護記録等への正確かつ十分な記載についての確認・指導
- 患者・家族への説明及び事故発生時の対応状況についての確認・指導
- 事故等の原因究明の適切な実施についての確認・指導
- インシデント及びアクシデント報告書の管理及び即時調査・分析
- ゼネラルリスクマネージャーの育成
- 医療安全に係る連絡調整並びに医療安全対策の推進
- ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
- ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（25件）、及び許可件数（24件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
 - 「先端医療開発センター」を平成29年4月より設置した。
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療技術取扱要領」
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の使用の決定、実施の支援及びモニタリング、先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
 - 先端医療開発センターの医師が、センターが決定した医療行為等の調査を行うときに遵守状況も併せて確認している。
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会専門委員会」で対応

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無
（☒有・無）
 - 「先端医療開発センター」を平成29年4月より設置した。
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療薬品取扱要領」
 - 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療機器取扱要領」
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の使用（保険適用外使用も含む）の決定、実施の支援及びモニタリング、先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
 - 先端医療開発センターの医師が、センターが決定した医療行為等の調査を行うときに遵守状況も併せて確認している。
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会専門委員会」で対応

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年462件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生
の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年392件（レベル3b以上）
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 死亡事例は全て即時に医療の質・安全管理部に報告させ、医療業務安全管理委員会に報告
するよう徹底している。
 - 上記に加えて死亡症例検証委員会で全死亡症例を詳細かつ効果的に検証している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：愛媛大学医学部附属病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：秋田大学医学部附属病院）・無）

- ・ 技術的助言の実施状況

- 令和元年 10 月 愛媛大学医学部附属病院への立入り
- 令和元年 11 月 秋田大学医学部附属病院からの立入り受入れ

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

- 「群馬大学医学部附属病院医療安全管理指針」（令和 2 年 1 月 7 日改訂・施行：医療安全管理委員会）の「7）患者相談への対応に関する基本方針」に記載するとおり、医事課、医療の質・安全管理部及び患者支援センターの各部署が連携して対応している。患者相談の一次対応の組織としては、「群馬大学医学部附属病院患者相談窓口設置要項」（平成 31 年 2 月 4 日制定）により、患者支援センター長を責任者とし、医師、看護師、事務職員及びソーシャルワーカーからなる患者相談窓口を設置。相談内容により各部署に振り分け対応している。そのためのフローを整備しているほか、相談内容とその対応についての検討を行うカンファレンスを原則週 1 回実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

- 病院の新規採用職員研修において、医療安全の基本について、医療の質・安全管理部長が講話を実施している。
- 年 2 回の受講が義務づけられている医療安全・感染対策職員研修に加え、最近のトピックや改革関連をテーマにした安全セミナーを開催している。また、医療事故防止ポケットマニュアルの習熟度を確認する研修を e-learning 形式で、医療職必須の研修として実施している。
- 各研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向けて、研修内容を録画した DVD 上映や e-learning を活用し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。
- 令和元年 6 月 17 日から 21 日にかけて「医療安全週間」を実施し、その中で、他施設で医療事故を経験したご遺族の講演会を医療安全職員研修として実施した。また、医療安全週間中は、各部門から活動紹介のポスター展示や医療安全に関する標語の掲示を行った。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修

の実施状況

・ 研修の実施状況

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 2019 年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）○ 令和元年 10 月 27 日～28 日 ME サプライセンター長（医療機器安全管理責任者）○ 令和元年 12 月 16 日 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）○ 令和 2 年 2 月 12 日 病院長（管理者）及び副病院長（医療安全管理責任者） |
|--|

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医師免許を有している者

2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者

具体的には医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等

3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者

具体的には、当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力等

4. 先般の一連の医療事故を踏まえ、現在、実行中の改善・改革を推進するとともに、評価・効率化・改良等も加えながら実行する姿勢と指導力を有している者

5. 当院に求められる使命を遂行するために必要な資質・能力を有している者

具体的には、大学の附属病院としての使命である、診療・教育・研究の充実等のもとより、大学の中期目標における「附属病院に関する目標」の項に掲げた次の事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

① 医療安全管理体制の改革を行う。また、患者の権利に配慮し、患者の目線に立った、患者中心の医療を行う。

② 高度急性期病院の体制と機能を強化し、超高齢社会の医療の中核を担う。

③ 地域医療及び先端医療への社会の要請に応えられる未来を担う医療人を育成する。

④ 未承認医療機器や保険未収載医療機器等の臨床試験を推進し、地域社会、国際社会に貢献する。

6. 群馬県の中核病院として、地域医療に貢献するために必要な資質・能力を有している者

具体的には、群馬県や群馬県医師会等とも連携し、地域の中核病院として県域全体の医療に貢献すること等について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 公表の方法

○ 大学のホームページに掲載

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ ☒ 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

**規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況**

合議体の設置の有無	㊥・無
・ 合議体の主要な審議内容 ○ 群馬大学医学部附属病院規程において、「病院運営会議」を「管理運営に関する重要事項を審議するため」の機関と位置づけている。 ○ 病院運営会議の審議事項は、「群馬大学医学部附属病院運営会議規程」に規定され、病院の医療提供機能、教育研修機能及び研究開発機能を達するための基本的計画に関する重要事項について審議するほか、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 運営方針に関すること。 (2) 中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。 (3) 予算及び決算に関すること。 (4) 人員配置に関すること（事務職員を除く。）。 (5) 施設の設置及び廃止に関すること。 (6) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 ○ 円滑な病院運営に資するため、診療科長や部門長等で組織する「臨床主任会議」において、病院運営会議の審議及び報告事項を周知している。また、病院の管理運営について必要な意見を聴くため、各診療科等から選出された中堅層の職位で組織する「病院連絡会議」において、同様に周知するとともに、各診療科等においては、内容をカンファレンス等で広くスタッフに周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（㊥・無） ○ 群馬大学医学部附属病院運営会議規程 ・ 公表の方法 ○ 本学ホームページ（病院）において掲載 http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（㊥・無） ○ 病院運営会議に外部有識者として参画している群馬県病院協会長から、その都度意見聴取を行い、俯瞰的視点からの意見等を管理及び運営に活かしている。	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田村 遵一	○	医師	病院長
齋藤 繁		医師	副病院長（医療安全担当）
塚越 聖子		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
村上 正巳		医師	特命副病院長（地域連携担当） 病院長補佐（地域連携担当）
小松 康宏		医師	特命副病院長（病院機能評価担当） 医療の質・安全管理部長
鈴木 和浩		医師	病院長補佐（保険診療担当）
大嶋 清宏		医師	病院長補佐（卒後研修・教育・防災担当）
対馬 義人		医師	病院長補佐（院内環境・労務担当）
調 憲		医師	病院長補佐（材料・薬品担当）
池田 佳生		医師	病院長補佐（広報担当）
濱田 智		事務職員	病院長補佐（施設担当）
安部 則行		事務職員	病院長補佐（財務・管理担当）
山本 康次郎		薬剤師	特命病院長補佐（薬事）
横尾 聡		歯科医師	特命病院長補佐（歯科医療）
中嶋 清美		技術職員	検査部臨床検査技師長
須藤 高行		技術職員	放射線部診療放射線技師長
西松 輝高			病院顧問（群馬県病院協会会長）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
 - 群馬大学医学部附属病院運営会議規程
- ・ 公表の方法
 - 本学ホームページ（病院）において掲載
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056
- ・ 規程の主な内容
 - 病院の目的、病院長の業務、病院長を補佐する各幹部職員の業務、病院運営会議ら各種会議体の役割、病院に設置される診療科・診療施設等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長…病院長の職務を補佐し、病院長不在の時はその職務を代行する。医療安全管理責任者としての役割も負う。
 - 病院長補佐…病院長が指示する管理運営等に関する個別具体的事項について、企画・立案及び連絡調整等を行う。
 - 病院顧問…病院の診療及び経営に関する諸課題や重要事項について、助言を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 2019年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）
 - 令和2年2月12日 病院長（管理者）及び副病院長（医療安全管理責任者）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	④・無
・ 監査委員会の開催状況：年2回 ※令和元年度実績 ・ 活動の主な内容： ＜令和元年度第1回病院監査委員会 令和元年10月2日＞ （議事内容）① 前回委員会以降の附属病院の経過 ② 群大病院の改善・改革の実施状況について 《改革3本柱の現在の活動状況》 ・ 地域医療研究・教育センターの活動状況 ・ 医療の質・安全学講座の状況 ・ 先端医療開発センターの活動状況 《報告事項》 ・ 外科診療センター ・ 画像診断未読確認システム ③ 病院視察（地域医療研究・教育センター～先端医療開発センター～読影室～肝胆膵外科病棟） ④ 医療安全に係る管理体制及び業務状況等の報告 ＜令和元年度第2回病院監査委員会 令和2年6月8日～7月8日＞ ※メール会議で開催。 （議事内容）① 前回委員会以降の附属病院の経過 ② 医療安全関連事項の報告 1 患者参加型医療推進委員会について（10/2, 12/16） 2 令和元年度「医療安全・質向上のための相互チェック」及び「特定機能病院間相互のピアレビュー」について（11/18） ③ 医療安全に係る管理体制及び業務状況等の報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（④・無） ・ 委員名簿の公表の有無（④・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（④・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（④・無）	

・ 公表の方法：

- 本学ホームページにおいて掲載

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693>

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者団体 連合会理事長 一般社団法人グル ープ・ネクサス・ ジャパン理事長		医療従事者以外の 者で医療を受ける 立場から意見を述 べることができる 者	有・ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共済組 合連合会理事長		医療従事者以外の 者で医療を受ける 立場から意見を述 べることができる 者	有・ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務所 弁護士		法律に関する識見 を有する者	有・ 無	1
児玉 安司	新星総合法律事務 所 弁護士/医師		医療に係る安全管 理に関する識見及 び法律に関する識 見を有する者	有・ 無	1
中屋 光雄	群馬県医師会監事		医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者	有・ 無	1
谷 修一	国際医療福祉大学 名誉学長		医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者	有・ 無	1
堀田 知光	国立研究開発法人 がん研究センター 名誉総長	○	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者	有・ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレビ朝 日ホールディング ス代表取締役社長		医療従事者以外の 者で医療を受ける 立場から意見を述 べることができる 者	有・ 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

- 病院長が行う病院運営が法令に適合することを確保するため、監査室（大学本部）が学長の命により行う内部監査で、法令の遵守状況を踏まえた病院運営の取組みに対する有効性を検証し、適時に見直しを行う。

・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）

- 群馬大学監査室

・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）

- 「群馬大学内部監査規程」

・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

- 本学ホームページにおいて掲載

http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 - 役員会では毎月、病院の収支状況報告を行うとともに、病院の管理運営状況を報告し、役員による監督を実施している。
 - また、病院監査の視点から、監事が病院長巡視及び医療業務安全管理委員会に毎回出席し、医療現場の視察、スタッフからの生の意見の聞き取り及び医療事故と再発防止策の確認並びに医療安全の確認等を実施している。
- ・ 会議体の実施状況（ 年 4 2 回 ）※役員会の令和元年度開催実績
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 3 回 ）
 - 病院の管理運営について、役員会で報告した回数。病院長は病院担当理事に任命されており、役員会の構成員となっている。
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
 - 「国立大学法人役員会規則」
「国立大学法人理事に関する申合せ」
- ・ 公表の方法
 - 本学ホームページにおいて掲載
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g30123/r01>
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)

- 職員用のご意見箱や多様な内部通報方法を構築している。

・ 通報件数 (年 2 件)

- 令和元年度実績 (職員用のご意見箱から 2 件)

・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ 無)

- 「国立大学法人群馬大学公益通報要項」を定め、公益通報の所管を危機管理室とし、通報の授受は秘密の保持に配慮しつつ、メール、電話、FAX による専用の窓口を設けるとともに、外部機関を経由した匿名の通報を受け入れる窓口 (内部通報ホットライン) を設置している。

通常の内部通報ホットラインとは別に、学外の弁護士が窓口となる病院における診療に関する内部通報ホットラインを設置している。

また、「群馬大学医学部附属病院職場改善のためのご意見等に関する申合せ」を定め、職場改善のための意見を授受する専用の窓口を設けている。

・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 周知の方法

- 病院運営会議、臨床主任会議等で周知した。さらに、内部通報ホットラインについては、名刺サイズの周知のためのカードを作成し、全教職員に配布している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 ○ 日本医療機能評価機構による病院機能評価【一般病院 3（主機能）、精神科病院（副機能）】 認定期間 2019年 1 月 26 日～2024年 1 月 25 日 （初回認定2004年 1 月 26 日） 交付日 2020年 7 月 3 日 訪問審査受審日 2019年 5 月 15 日～17 日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ○ 本院ホームページにおいて、病院の理念、基本方針等を始め、病院指標や各診療科の医療技術や、部門等の取組について紹介している。 ○ 「群大病院だより」と「群大病院地域連携だより」を年2回発行し、病院の取組、新技術や部門の紹介を掲載して、患者さんや地域の医療機関等に配布して情報を発信している。 ○ 病院規程等、病院の主要規程をホームページで公表している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ 外科診療センター、内科診療センターを設置し、外科及び内科それぞれの臓器別診療科を統括している。センターでは、臓器別診療科毎のカンファレンスに加え、多職種によるセンター全体の合同カンファレンスを実施するとともに、問題事例に関しては、合併症・死亡症例カンファレンスを開催している。	

- 各種がんの治療方針等について、診療科等の枠を超えた多職種で検討するがんサージカルボード体制を整備。がんサージカルボード指針に従い、担当する診療科のみならず、関連する診療科の医師、薬剤師、看護師等の多職種が参加する。
- 先端医療開発センターでは、各診療科、部門等から推薦された多職種のサーベイヤーが連携し、センターで指定した各医療行為の実施状況調査・確認を行う「モニタリングサーベイヤー制度」を整えた。この制度は、医療者の意識や風土文化の改革も目的としており、各診療科間の相互チェックを兼ねる位置付けとしている。